



# 教育センターだより

編集・発行  
君津市教育センター  
君津市久保2-13-1  
TEL (56) 1451  
FAX (56) 1648  
第150号

特色ある学校経営

## 「六とせを育つ おらが学校を目指して」

君津市立大和田小学校 校長 山口一也



4月1日、桜並木と前回一緒に勤務した同僚に迎えられ、大和田小学校2度目の勤務が始まりました。3日には、保護者と一晩語り合う等「戻ってきたんだなあ」と覚悟を新たにしたスタートでした。

本校は、新日鐵君津製鉄所の建設に伴う人口急増により昭和43年に設立され、本年度でちょうど43年目を迎えます。開校当時は、北九州から転居された方がほとんどであり、君津市の学校でありながら根は九州気質という感があったようですが、現在は、保護者に卒業生も増え君津地域に根ざした学校となってきています。

そこで、「おらが学校」づくりを学校経営の土台に据えました。ここ数年間に、特別に支援を要する児童や課題を抱える児童が増加し、対応に追われ疲労困憊する職員。この状況を打開するためには、今まで以上に学校・家庭・地域が、それぞれの役割と責任を自覚して連携することが必要であると考えたからです。

### ★私の学校経営★

#### 1. 学校教育目標

「豊かな心を持ち かしこく たくましく生きる児童の育成」

#### 2. 合い言葉

○「夢 チャレンジ 大和田っ子」

教師が夢を語り、夢を持たせ、失敗を恐れず挑戦する児童を育成する。

○「子どもが一番 待ったなし」

どんな場合でも子どもへの対応を最優先とし「あとでね」はせず、その時その場で勝負する。

○「やさしく 厳しい 笑顔の教職員」  
善悪の判断をしっかりとし、「悪いは悪い、だめはだめ」と厳しく叱りけじめを付け、褒めるときは頭をなで抱きしめ、みんなに紹介する等バランス良く対応する。

#### 3. 7つの経営方針

- ①全職員の積極的な経営参画
- ②心豊かな児童の育成
- ③基礎・基本の定着
- ④健康・安全教育の推進
- ⑤校内研修の充実
- ⑥開かれた学校づくり
- ⑦幼・小・中・高の連携

#### 4. 学校像

学校像は、「おらが学校」を土台に据えたことから、保護者・地域にも浸透している校歌を活用することとしました。

1番 すべての物が 芽ぐむとき  
学びの窓に 光りあり  
われらが 大和田小学校

学校・家庭・地域が連携し、児童を励まし支える学校。

児童一人一人が大切にされ、思いやりに満ちた安全で安心な学校。

2番 鍛えよ友よ 身と心  
根性に耐える 誇りあり  
われらが 大和田小学校

ともに学び合い 鍛え合い  
高め合う学校

あいさつ 歌声が響く  
活気あふれる学校

3番 六とせを育つ 学びやに  
文化の息吹 新たなり  
われらが 大和田小学校

失敗をおそれず  
チャレンジし合う学校

#### 5. チーム大和田

学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を自覚し連携することで、更なる活力と信頼が生まれると考え、三者の連携組織をチーム大和田としました。保護者・地域にアピールし、チーム大和田として学校教育目標の達成を目指しています。

# 私の授業論（小学校 理科） ～実感の伴った理科学習を求めて～

君津市立小櫃小学校 山村 由美子

## 1. 新学習指導要領で大切にしたいこと

学習指導要領の先行実施2年目になった。2年目の移行措置内容は、実質完全実施といってよい。新しい小学校理科のキーワードは「実感」である。新学習指導要領の目標に自然の事物・現象の理解に「実感を伴った」という文言が付加されたことで、授業が変わっていくことが求められている。

実感を伴った理解とは・・・

### ① 体験を通じた理解

- 自然に関する関心や意欲を高める学習活動
- 主体的な問題を見いだす学習活動 など

### ② 問題解決を通じた理解

- 自然の事物・現象と科学的にかかわる学習活動
- 見通しをもった観察・実験などの学習活動 など

### ③ 活用を通じた理解

- 観察、実験などの結果を整理し、考察・表現する学習活動
- 学んだことを生活とのかかわりのなかで見直す学習活動 など

## 2. 活用を通じた理解の場面

ここでは、一連の問題解決活動をとおして学んだ知識や技能が、確かなものとして定着しているかどうか確かめるために、「活用」を通じた理解についての実践を報告する。

活用場面では、問題解決の場で獲得した知識や技能を活用して意欲的に問題解決していけるような水溶液当てクイズを設定した。一連の問題解決学習を通して学んだ知識や技能を、より有効に機能させるためには、獲得した知識や技能を発展の場で活用させてみるのがとても重要であると考えた。このような場を体験することで、児童は学んだ知識や技能が機能するか試され、「学ぶこと」の効果を実感し、学習意欲が喚起されるだろう。

具体的には、本時で出てきた実験結果と問題解決の場でのデータとを比較し、水溶液の正体を判断することになる。児童が観察、実験などの結果を整理し、科学的な（実証性、再現性、客観性）見方や考え方を養うことがねらいである。児童は、一つの実験結果で水溶液の判定ができないので、「判断表」や「樹形図」など記録の方法を工夫し、論理的に結果を導き出す手順を模索していた。問題解決の場面で使った水溶液を様々な角度からとらえ直すことができるようになり、水溶液の性質の理解がより深まった。これまでの学習の理解の仕方がすべて試される活動を児童はゲーム感覚で楽しみながら取り組んだ。

第6学年 理科学習指導案

1. 単元名 水溶液の性質

2. 本時の指導計画 (12 / 12)

(1) 目標 問題解決学習を通して学んだ知識や技能を活用して水溶液当てクイズに取り組むことにより、水溶液の性質や働きについての考えを深めることができる。

(2) 展開

| 時配   | 学習活動と内容  | 指導上の留意点(○)と評価(◎)   | 準備  |
|--|--|--|---|
| 2  | 1. 本時の学習活動を確認する。   | ○既習で扱った水溶液(8種類)の中から4種類を選び、対戦相手のグループに出題する。  | 食塩水<br>ホウ酸水<br>炭酸水  |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     学習したことをもとに、水溶液の正体をあてよう。                 </div> |  |  |   |
| 3  | 2. 各グループごとに出題された水溶液を判定する作戦を練る。   | ○制限時間は20分、実験回数は、1つの水溶液に対して3回までのルールとするので、実験の順番と方法をよく吟味する。   | 塩酸<br>水酸化ナトリウムの水溶液<br>石灰水   |
| 20   | 3. 各自(各グループ)で観察・実験を通して調べる。<br><br>①目で観察する。<br>②においを嗅ぐ。<br>③リトマス紙を使って性質を調べる。<br>④ムラサキキャベツ液を使って性質を調べる。<br>⑤蒸発させ、残るものを調べる。<br>⑥顕微鏡で調べる。<br>⑦金属を入れて調べる。<br>⑧石灰水を入れる。<br>⑨冷やす。<br>⑩二酸化マンガンの中に入れる。 | ○これまでの学習をノートや記録用紙によって振り返り、調べる手順、方法を確認する。<br>○五感を通じた観察(目・鼻)は直接肌に触れないように、においの嗅ぎ方も指導しておく。<br>○簡単に結果を出さず、複数の根拠から答えを出すように助言する。<br>○観察・実験は、変化していくプロセスや微妙な変化を丁寧に見て記録するよう助言する。<br>○実験が安全に行われるように、座席表をもとに留意する。<br>○⑤の残ったものは、顕微鏡などで詳しく観察させたい。<br>○グループの中で情報交換しながら、手際よく実験が進められるように支援する。 | アンモニア水<br>過酸化水素水<br>試験管<br>試験管立て<br>アルコールランプ<br>リトマス紙<br>アルミニウム<br>二酸化炭素<br>ムラサキキャベツ液<br>水<br>顕微鏡 |
| 15   | 4. グループごとに調べた結果や考察したことを発表する。   | ○既習の知識や技能を活用し、意欲的に観察・実験しているか。<br>○水溶液の性質や働きから考察して答えをまとめさせたい。<br>○間違った場合は、その原因を振り返る。  |   |
| 5  | 5. 本時の授業の感想を書く。<br><br>6. 本時のまとめをする。   | ◎答えの根拠が水溶液の性質や働きに沿っているか。<br>○時間があれば、書く時間を与え授業の感想を話し合う。   |   |

## 英語及び英語活動研修会

(平成22年6月9日(水) 市役所6階601会議室にて)

### ワークショップ「フォニックスって何？」

講師 清和中学校 校長

元MPI(松香フォニックス研究所) 会員

高橋 純子 先生 マナ・エザワ (ALT)

◇「自分の英語の発音に自信が持てない！」という小学校の先生方のために、アルファベットの音と文字との関係を理解し、発音のコツを学べる「フォニックス」の研修を行いました。

◇1グループ4～5人の10グループで活動しました。各グループにALTが1人ずつ、そして、中学校の先生または国際化推進コーディネーターの先生方が付いたので、小学校の先生方も安心して発音を学び、またALTと楽しくコミュニケーションをとることができました。



○次回は11月19日(金)に行います。たくさんの先生方の参加をお待ちします。

## 小中学校生徒指導研究協議会事業

◇昨年度に引き続き、「人の話を聞き、自分で考え行動する児童の育成」をテーマに設定し、特に「人の話を聞く」ということに視点をあて、小学校低学年において、どのような取り組みが有効であるかという『社会的スキル育成プログラム実践資料集』を作成し、年度末には各校へ配付する予定です。

その他の活動として下記の内容を行います。

### ○会報「セルフエスティーム」の発行(年5回)

生徒指導研究協議会の委員等による執筆で自尊感情を主題として、年5回発行します。

### ○生徒指導研究協議会及び長欠対策協議会合同教育講演会の実施

生徒指導上の諸課題解消及び生徒指導研究協議会において求めている研究内容に照らし合わせ、8月20日(金)に教育講演会を生涯学習交流センターにて実施します。

講師 市原市教育センター 所長 土田 雄一 先生

演題 「聞かせるための指導・工夫(仮題)」

演習等も交え、ご講演いただきます。

## 小中学校教育課程検討委員会事業

◇君津市の課題である児童生徒の学習習慣・家庭学習の定着をめざし、下記の内容の事業を計画、実践していきます。

### ○「家庭学習の手引き」(小学校版)の作成

各学校が取り組みやすい家庭学習習慣育成のモデルを示します。

### ○教育課程講演会の実施

児童生徒の学習習慣の定着と、教師の教育技術・指導力向上を目的として、7月27日(火)に教育課程講演会を地域情報センターにて実施します。

講師 國學院大學 教授 滝井 章 先生

演題 「学力を支える生活習慣と学習習慣」

～子どもたちを伸ばす家庭学習とは?～

実践的な指導方法についてご講演いただきます。

### ○授業公開

若年層教員(5年経験未満)の指導力向上を目的として、君津市教科指導員のご協力のもと、授業公開を2学期に2回程度実施します。

## 清和体験学習

◇地元清和を舞台にした、市内小中学校各1校による自然体験学習が過日、実施されましたので紹介します。

### ○久留里中学校(石射太郎山～高宕山 10kmコース)

#### 生徒の感想

- ・つらかったが、山頂からの景色は最高だし、友情も深まった。
- ・清和のようなすばらしい自然を久留里でも探してみたい。

#### 教師の感想

- ・困難体験は、生徒だけでなく大人にとってもよい経験になった。



### ○小櫃小学校(三間川川学習コース)

#### 児童の感想

- ・久しぶりに友だちみんなと、思い切り遊んだ。
- ・滝つぼへのジャンプが最高!
- ・いろいろな魚がいることがわかった。
- ・つりはむずかしかった。



## 教育委員会新メンバー



### 学校教育課 管理担当主幹 増田 眞一(写真中央)

本年度より学校教育課でお世話になっております。

提出物なども含め、できるだけ効率よく事務処理ができるよう努力していきます。よろしくお願ひします。

### 教育センター 主査 倉富 良輔(写真左)

今年度4月より、教育センターに勤務しております。

平成24年度の君津市教育ネットワークの更新に向けての準備が始まりました。児童生徒、教職員のみならず、役立つ更新・整備となるよう努力してまいります。よろしくお願ひいたします。

### 体育振興課 主査 田端 晃人(写真右)

君津市の子どもたちの体力向上のため、体育主任の先生方と協力してがんばっていきたくと思います。微力ではございますが、何事にも全力で取り組んでいきたくと思いますので、よろしくお願ひします。